

令和5年度 日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創成事業
最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業

2025 大阪・関西万博に向けた

文化芸術

ユニバーサル・ツーリズム

プロジェクト

令和5年度

ユニバーサル・ツーリズムの

取り組みについて

制作・発行：

一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会

2025 大阪・関西万博に向けた文化芸術ユニバーサル・ツーリズムプロジェクト

主催：一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会／独立行政法人日本芸術文化振興会／文化庁

協力：障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク

社会福祉法人日本身体障害者団体連合会／社会福祉法人日本視覚障害者団体連合／一般財団法人全日本ろうあ連盟／一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会／社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会／社会福祉法人日本肢体不自由児協会／公益社団法人全国精神保健福祉会連合会／認定NPO法人DPI日本会議／一般社団法人日本自閉症協会／公益財団法人日本ダウン症協会／社会福祉法人全国盲ろう者協会／一般社団法人日本精神保健福祉事業連合／一般社団法人全国知的障害児者生活サポート協会／全国身体障害者施設協議会／特定非営利活動法人バリアフリー映画研究会／特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク／一般社団法人ジェネシスオブエンターテインメント／全国自立生活センター協議会（JIL）／一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会

連携・協働：障がい者の文化芸術活動推進知事連盟



障害者が文化芸術にふれる
地域の人びとがバリアに気づく
関わった人がよりよく生きる

だれもが・いつでも・どこでも。

「文化芸術ユニバーサル・ツーリズム」は
障害や立場を超えたいろいろな人が
いろいろな何かに気づける“きっかけ”となりえます。



これまでの活動・本プロジェクトについて	02
プロジェクトメンバー紹介	03
寄稿「だれもが旅を楽しめる社会を」 尾上 浩二	04
ユニバーサル・ツーリズム関連用語	06
モニターツアー基礎情報	07
山梨	08
大阪	10
島根	12
鳥取	14
奄美	16
特別報告◆三浦さんと語る！ モニターツアー奮闘記	18
手配編	20
移動編	24
宿泊編	28
交流編	32
観光編	36
あとがき	40

だれもが・いつでも・どこでも

「文化芸術ユニバーサル・ツーリズム」の実現に向けて、私たちにできること

一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会

●これまでの活動

2020年2月～2022年2月、私たちは「日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル」を全国7つのブロックで開催してまいりました。

また、2022年度には同フェスティバルを継承し、日本博を契機とした障害者の文化芸術共同創造プロジェクトを実施。美術展、舞台芸術公演、バリアフリー映画・演劇公演を全国で展開しました。

誰もが楽しむことができるよう、さまざまな創意工夫のもと、交通事業者や地方自治体、福祉事業者と連携を図ってきた点も特長の一つです。

たとえば、地元UDタクシーとの連携、シャトルバスの運行、特別支援学校・教育委員会・バス会社と提携した送迎、車いすユーザーの独自送迎など、障害者が会場へアクセスしやすい環境も整えてきました。

しかしながら、「だれもが・いつでも・どこでも」ということを実現するためには、まだまだ課題があることもわかってきました。

障害が理由で、鑑賞や創造・体験などの文化芸術活動に参加できない障害者は数多くおられます。そしてそれは、旅(＝ツーリズム)においても同じです。

●本プロジェクトについて

私たちは、東京2020オリンピック・パラリンピックで活発化した障害者の文化芸術活動やバリアフリーに対する意識を、2025年大阪・関西万博に向けて、さらに磨き上げることが必要と考えています。

そこで、「文化芸術」と「ユニバーサル・ツーリズム」を掛け合わせた本事業を柱に据え、プロジェクトを始動しました。令和5年度～7年度(2023年度～2025年度)の3ヵ年計画です。

2025年大阪・関西万博を契機に、障害者が文化芸術活動を発表・鑑賞する機会を創出し、魅力ある日本として世界に発信すること。加えて、国内外の障害者をはじめ、だれもが・いつでも・どこでも障害者の文化芸術にアクセスできる「文化芸術ユニバーサル・ツーリズム」の実現を目指します。

その初年度となる令和5年度は、ツーリズムの造成を見据えたモデルケースとして、国内5か所(山梨・大阪・鳥根・鳥取・奄美)においてモニターツアーを企画しました。旅行社の協力を得ながら、障害当事者および介助者が旅行に参加し、多言語化および合理的配慮が取り入れられた演劇を鑑賞するなど、各回においてさまざまなプログラムを実施しました。

文化芸術とユニバーサル・ツーリズム、それらを通じてのさまざまな出会い、気づき、活動は、私たちの生きる糧となり、よりよい明日へつながるはずです。

本書は、これらが推進される環境をさらに整えていくため、ユニバーサル・ツーリズムの移動行程のレポートや、合理的配慮にむけた新たな知見をとりまとめたものです。障害者をはじめ、誰もが幸せな地域生活を送るための一助となれば幸いです。



プロジェクトメンバー



みうら ひろよ
三浦 啓代さん
全5回のモニターツアーを支えた縁の下の力持ち。明るい人柄と、居心地のよい心づかいは天下一品。株式会社セントラルツアーズ社員。



おのうえ こうじ
尾上 浩二さん
障害者運動のトップランナーとして走り続け、社会を力強く変えてきた。車いすで生活しながら年間の半分は全国出張へ。DPI 日本会議・副議長。

事務局（オーガナイザー）
にしかわ けんじ
西川 賢司
一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会
障害者文化芸術（日本博事業）担当



いまむら のぼる
今村 登さん
29歳で障害を負ってからも、CIL（自立生活センター）を立ち上げるなど、簡単には諦めない、粘り強さと実行力は健在。自立生活センターSTEP えどがわ理事長。



もりがみ まさみ
盛上 真美さん
障害者の国際支援に関わる仕事をしながら、山梨・清里でバリアフリーのゲストハウス「Lifequality Casa」を家族と経営。人と人を繋ぐのが使命であり一番の喜び。



ひらした こうぞう
平下 耕三さん
見た目はちょっと怖そうな(?)お兄さん。でも周りからは「しゃちょー(社長)！」と呼ばれ、頼りになる存在。NPO 法人自立生活夢宙センター理事長。

参加された障害当事者の方々

尾上 浩二さん
(車いすユーザー/脳性まひ)

かみその かずたか
上菌 和隆さん
(視覚障害)

わたなべ しゅんこ
渡邊 順子さん
(車いすユーザー/脳卒中)

平下 耕三さん
(車いすユーザー/骨形成不全)

すぎた まこと
杉田 淳さん
(視覚障害)

ひなが ゆきこ
日永 由紀子さん
(車いすユーザー/
ALS [筋萎縮性側索硬化症])

今村 登さん
(車いすユーザー/頸髄そんしょう)

のぎき ちえこ
野崎 知恵子さん
(聴覚障害)

まつい けいこ
松井 恵子さん
(車いすユーザー/脳性まひ)

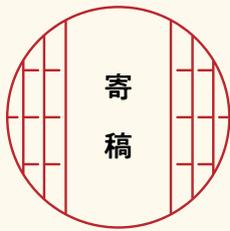
ばば しゅうじ
馬場 秀司さん
(車いすユーザー/
ALS [筋萎縮性側索硬化症])

さざわ こ
佐沢 タイ子さん
(聴覚障害)

パク ジンホさん
(知的障害)

よしだ みゆき
吉田 美幸さん
(聴覚障害)

このほかにも、障害者・介助者のみなさま、運転やガイドを快く引き受けてくださった方々、お宿や各観光地、文化芸術などのあらゆるシーンでご活躍のみなさまにご参画いただきました。



だれもが旅を楽しめる社会を



DPI <障害者インターナショナル>日本会議・副議長
尾上 浩二

■様々なバリアの中で

～ユニバーサル・ツーリズムへの期待

ユニバーサル・ツーリズムのモニターとして参加し、ふだんではできない旅を楽しむことができました。

奄美大島では、バリアフリー演劇鑑賞を楽しみ世界自然遺産にふれることもできました。奄美大島でのバリアフリー演劇公演自体が、「離島」というバリアを解消する試みです。

奄美大島までの飛行機に、私の電動車いすが搭載できるか確認するのに一苦労です。飛行機に乗ることが分かってからも、空港からの移動手段が見つかりません。UD タクシーはなく、介護タクシーもふだんの送迎で手一杯とのこと。このままでは空港から外に出られない…。そうしたところ、実行委員会関係の福祉事業所からリフト付き車両をお借りし、さらにホテルのスタッフで運行体制を組んで頂けることになり、無事、ツアーに参加することができました。

演劇や旅行のバリアは、物理的なものだけではありません。奄美大島のツアーでご一緒した知的障害のある男性とお母さんの話が忘れられません。知的障害のある男性は感動すると大きな声が出てしまう「行動障害」があります。彼が小学生の時に、きょうだいと一緒に家族連れで映画を観に行ったことがあるそうです。上映中、彼は感動し大きな声が出てしまいました。その時の周りのお客さんの視線に居たたまれなくなり、きょうだいを残して、彼とお母さんだけロビーに出て1時間

以上待っていた。その時以来、映画とか演劇を観ることはできないとあきらめていたとの話でした。さらに、家族旅行に行ったこともあるが、食事の時に彼が声を出したため他のお客さんからクレームが入り、自分達だけ自室で食事をしなければならなかったという話もしてくれました。そんな気兼ねをせずに楽しめそうだからと、モニターに申し込んでくれたのです。バリアフリー演劇やユニバーサル・ツーリズムの意味を、あらためて考えずにはおれませんでした。

■ツアーを楽しむ「余裕」

～様々な手配・調整のバックアップ

山梨では、バリアフリー演劇以外に、考古資料館や遺跡を見学しレストランで食事をすることができました。

会議や講演などの関係で、コロナ前は一年の半分くらいは出張しているような生活をしていました。ただ、それだけ出張があっても、主な目的地以外に行くことはほとんどありませんでした。特に初めての地域ではバリアフリー情報がなく、気軽に行って楽しむという感じにはなりません。

以前、仕事を終えて、その地域の動物園に行こうとしたことがありました。市街地から動物園までは車でしか行けません。その地域にはUD タクシーは走っておらず、利用できそうなのは路線バスのみでした。最近ではインターネットで時刻表は出てきますが、どれ

“

ユニバーサル・ツーリズムが、 その観光地のバリアを可視化し改善をもたらす

”

がバリアフリー車両かまでは情報提供されていません。地元の障害者団体から管轄の営業所の連絡先を聞き、ようやくバリアフリー車両が来る時間を確認することができました。

新幹線など主要な鉄道のバリアフリーは近年だいぶ進んできましたが、ツアーとなると問題になるのはその先です。

考古資料館、遺跡、レストランというルートを回るのは貸し切りバスが必要でした。レストランの入口には少し段差があることも分かりました。バリアフリーな貸し切りバスの手配やレストランのバリアフリー状況の確認など、個人ではとてもできるものではありません。三浦さんのバックアップがあったからこそ、これらの課題をクリアし無事ツアーが実現できたのです。

しかも、今回の問合せをきっかけに、レストラン側も段差に気づかれたようで、新たにスロープを備え付けて頂くなど嬉しい対応もありました。ユニバーサル・ツーリズムが、その観光地のバリアを可視化し改善をもたらす可能性を感じるできごとでした。

■大阪・関西万博を機に、障害者文化芸術 ユニバーサル・ツーリズムの展開を

いよいよ一年後には2025大阪・関西万博が開催されます。この万博を機に、大きく期待していることがいくつかあります。

一つ目は、大阪・関西万博で、障害者文化芸術の素晴らしさを国際的に発信することです。

障害者文化芸術推進法は、障害者権利条約の審査でも積極的に評価されています。万博で世界の人達に観てもらえるよう、障害者のパフォーマンスやバリアフリー演劇、バリアフリー映画が、開催期間中、連日、パビリオンや催事場で開催されることを期待します。

二つ目は、万博会場のみならず、障害者文化芸術のイベントが各地で開催されることです。そのことで、障害者文化芸術への関心が全国的に盛り上がることを期待します。

三つ目は、ユニバーサル・ツーリズムが全国的に展開されていくことです。万博会場や各地のイベント会場に国内外から障害のあるお客さんが訪れ、文化芸術とともに、その地域ならではの観光を楽しめるようになることを期待します。

2025年大阪・関西万博で以上のような点を実現して、さらに大きく前進することを心より祈念します。

Profile

おのうえ・こうじ

1960年大阪市生まれ。小学校での養護学校、施設入所経験が障害者運動に飛び込む原体験。大阪市立大学入学直後から障害者運動に関わり始める。全国初となった大阪府福祉のまちづくり条例制定運動に携わった後、自立生活センター・ナビを立ち上げ相談・権利擁護活動に取り組む。

知っているようで知らない？
ユニバーサル・ツーリズム関連用語 🔍

【合理的配慮】 ごうりてき - はいりょ

「障害のある人から「社会の中にあるバリア（障壁）を取り除くために何らかの対応が必要」との意思が伝えられたときに、行政機関等や事業者が、負担が重すぎない範囲で必要かつ合理的な対応を行うこと」（内閣府 HP より）

（参考：尾上浩二さんのお話）

「合理的配慮を『思いやり』としてみましょ。例えばレストランに行って、思いやりのある店員さんだったら座席を用意してもらえたけれど、思いやりに欠ける店員さんだったら入りにくくて、結局食べられなかった。同じレストランなのに、食べられるときもあれば食べられないときもあるとまずいと思います。『思いやり』は一方通行の感じがある。合理的配慮は、お互い話し合ったうえで、困りごとを除去するための『落としどころ』を見つけるところにポイントがあると思うんです」

（ハートネットTV「フクテッチ」『合理的配慮』前編①～合理的配慮ってなに？当事者のモヤッと体験座談会～より）https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005170846_00000 (2024/3/22 閲覧)

【バリアフリー】

Barrier free。バリアフリーの「バリア」とは、英語で障壁（かべ）という意味で、人々の移動時に障壁となっているバリアをなくす（フリーにすること。「バリアフリー社会」を実現するためには、障害のある人をとりまく4つの「バリア」を取り除くことが必要といわれ、4つのバリアとは、物理的、制度的、文化・情報面、意識上のバリアがある。

【リフトバス（リフト付き大型（小型）バス）】

車いすに乗ったまま乗降・観光できる電動リフトが付いたバス。大型バスからマイクロバス、小回りのきくミニバス（ジャンボタクシー）まで様々な種類がある。リフト付バスを所有しているバス会社は都道府県によって異なり、所有台数も少ない。

（参考：「貸切バス 予約センター」WEB サイト）<https://www.kashi-bus.com/> (2024/3/22 閲覧)

【UD タクシー】

健常者はもちろん、足腰の弱い高齢者、妊娠中の女性、ベビーカー使用者なども含め、みんなが使いやすい新しいタクシーのこと。

予約制の福祉限定による利用に限らず、誰もが利用できるユニバーサルデザイン構造になっており、車いす利用者はそのままの乗車が可能な構造になっている。

【ユニバーサルデザイン】

Universal design。年齢、性別、国籍、個人の能力に関わらず、はじめからできるだけ多くの人が利用可能なように、利用者本位、人間本位の考え方に立って、快適な環境をデザインすること。

ユニバーサルデザインは、①公平性（誰にでも公平に利用できること）、②自由度（使う上で自由度が高いこと）、③簡単（使い方が簡単ですぐわかること）、④明確（わかりやすい情報で理解しやすいこと）、⑤安全性（うっかりミスで、間違った使用をしても、出来る限り危険につながらないこと）、⑥持続性（無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること）、⑦空間性（誰にでも使える大きさ、広さがあること）の7原則が示されている。

【ユニバーサル・ツーリズム】

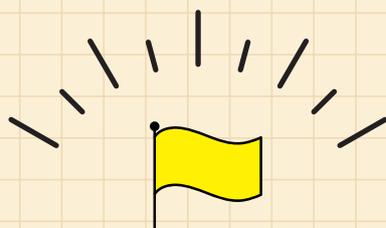
高齢や障害等の有無にかかわらず、すべての人が安心して楽しめる旅行を指す。

（参考 WEB サイト）

・内閣府「障害者差別解消法に基づく基本方針の改定」
https://www.cao.go.jp/press/new_wave/20230331_00008.html (2024/3/28 閲覧)

・国土交通省 関東運輸局「バリアフリー関係用語集」
https://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_seisaku/barrier_free/word.html (2024/3/29 閲覧)

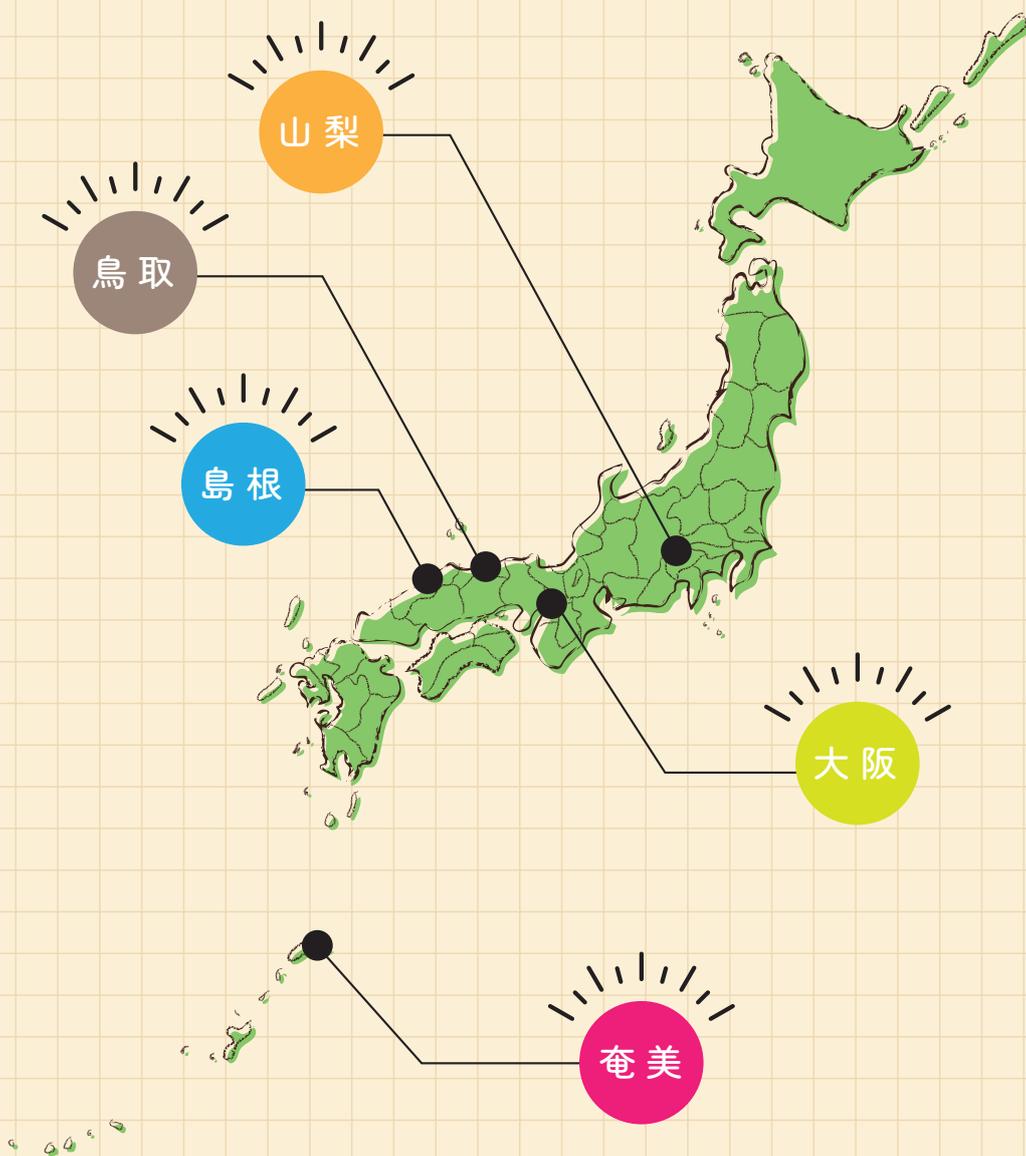
・観光庁「ユニバーサルツーリズムの推進」
https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku/kokunaikoryu/kaitaku/universal-tourism.html (2024/3/22 閲覧)



モニターツアー基礎情報



令和5年（2023年）度は山梨・大阪・島根・鳥取・奄美大島へのモニターツアーを企画しました。
次のページから、ツアーの基本情報や全体のスケジュール、
商品化に向けたタリフ（料金表）を記しています。





山梨県・みんなで楽しむバリアフリー演劇祭

日本遺産「星降る中部高地の縄文世界 ～数千年を遡る黒曜石鉦山と縄文人に出会う旅～」

モニターツアー 日程

2023年9月16日(土)～18日(月・祝)
2泊3日

モニターツアー 参加者

身体障害者：4名
介助者：3名
健常者：3名
オーガナイザー：1名
添乗員：1名

移動手段

1日目：JR / 宿泊地送迎車
2日目：大型リフト付きバス
3日目：宿泊地送迎車 / JR

主なプログラム

- ・みんなで楽しむバリアフリー演劇祭 鑑賞
- ・北杜市考古資料館 見学
- ・梅ノ木遺跡 散策
- ・ユニバーサル・ツーリズム勉強会
- ・東京演劇集団 風「星の王子さま」鑑賞



鑑賞サポート

- ◎バリアフリー日本語字幕・英語字幕
- ◎音声ガイド
- ◎事前の舞台説明
- ◎舞台上での手話通訳
- ◎車いす席

会場と一体となった
バリアフリー演劇



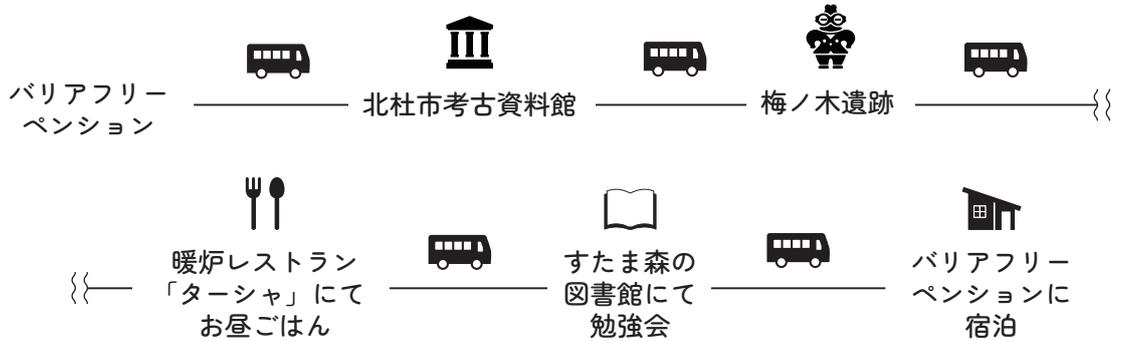
終了後の交流会で
楽しみに話す尾上さん

モニターツアー
行程表

1 日目



2 日目



3 日目



今回のモニターツアーを基に
モデルツアーを造成しました

詳細は
こちら▶



商品名	【ユニバーサルツーリズム山梨】 山梨の芸術と自然に触れる 3 日間	備考	【団体向け】 最少催行人員：12 名 ・催行人員を下回った場合でも御人数分の旅費のお支払で実施可能 ・観光入場料は現地払い（手帳の所持状況で金額が変わるため） ・視覚障害、聴覚障害の方や多言語対応のサポートも可能です（別途見積もり）
出発地／帰着地	松本空港 / 松本空港		
ホテル	Lifequality Casa (ライフクオリティ カーザ)		
室定員	定員		
食事条件	朝食 2 回、昼食 1 回、夕食 2 回 (Casa/ 現地各店舗)		
送迎	株式会社アリーナ		
価格帯	¥106,000 ~ ¥113,000 / お一人様		

行程表	
1 日目	松本空港 ⇒ 峠の釜めし おぎのや (諏訪湖 SA・上り) ⇒ 諏訪大社上社本宮 ⇒ 中村キース・ヘリング美術館 ⇒ 萌木の村 (Casa)
2 日目	萌木の村 (Casa) ⇒ 清泉寮 ⇒ サンメドウズ清里スキー場 ⇒ 萌木の村 (Casa)
3 日目	萌木の村 (Casa) ⇒ 山梨県立フラワーセンター ハイジの村 ⇒ 暖炉レストラン ターシャ ⇒ 中央自動車道 (八王子 - 岡谷) 諏訪湖 SA 下り ⇒ 松本空港

作成：株式会社セントラルツアーズ



～ 2025 大阪・関西万博に向けて～ バリアフリー演劇祭 in 大阪

東京演劇集団 風「Touch ～孤独から愛へ」

モニターツアー 日程

2023年10月7日(土)～9日(月・祝)
2泊3日

モニターツアー 参加者

身体障害者：1名
介助者：2名
オーガナイザー：1名
添乗員：4名

移動手段

1日目：在来線・徒歩
2日目：在来線
3日目：在来線・徒歩・送迎車

プログラム

- ・なんばグランド花月 鑑賞
- ・バリアフリー演劇
夢屋公演 鑑賞
東京演劇集団 風「Touch」鑑賞
- ・ボーダーレスアートミュージアム「NO-MA」
鑑賞



鑑賞サポート

- ◎バリアフリー日本語字幕・英語字幕
- ◎音声ガイド
- ◎事前の舞台説明
- ◎舞台上での手話通訳
- ◎車いす席

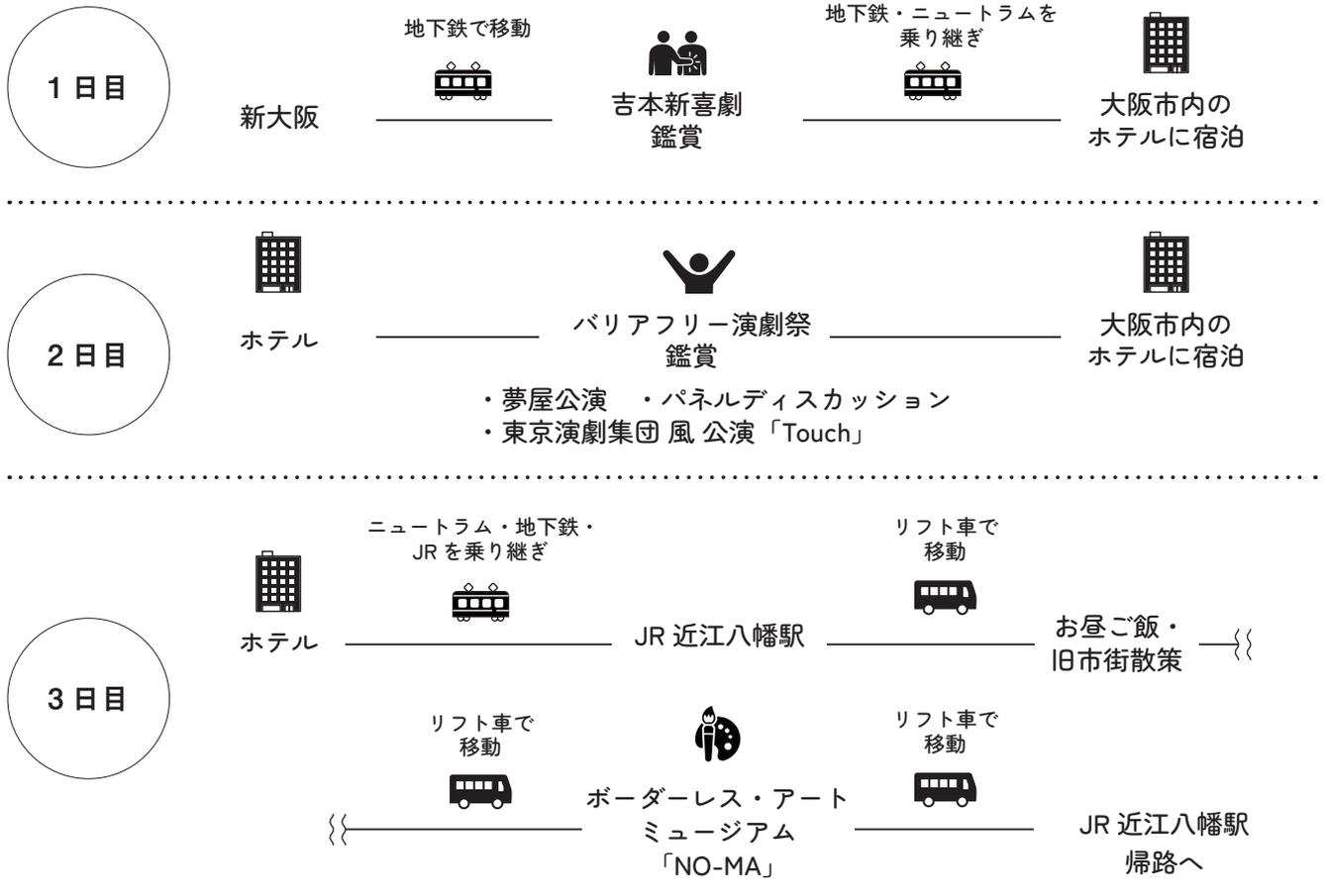


バリアフリー演劇の
会場にて

ランチタイムにて
ALSの馬場さんも視線
入力でおしゃべりします。



モニターツアー
行程表



今回のモニターツアーを基に
モデルツアーを造成しました

詳細は
こちら▶



商品名	【ユニバーサルツーリズム関西】大阪発 貸切りリフトバスで行く滋賀「文化芸術や歴史に触れる」日帰り旅	備考	【団体向け】 最少催行人員：16名 ・催行人員を下回った場合でも御人数分の旅費のお支払で実施可能 ・陶芸体験は追加料金で「電動ろくろ」に変更できますが、一度に体験できる人数は12名までとなります ・視覚障害、聴覚障害の方や多言語対応のサポートも可能です（別途見積もり）
出発地／帰着地	大阪市内ホテル（例：さきしまコスモタワーホテル）／大阪市内ホテル		
ホテル	—		
室定員	定員		
食事条件	昼食1回		
送迎	大型リフトバス		
価格帯	¥34,000 / お一人様		

行程表

1日目	大阪市内ホテル(例:さきしまコスモタワーホテル) ⇒ 近江神宮 ⇒ 大小屋(昼食・陶芸体験) ⇒ ボーダレス・アートミュージアム NO-MA (ノマ) ⇒ ラ コリーナ近江八幡 ⇒ 大阪市内ホテル
-----	--

作成：株式会社セントラルツアーズ



いわみ福祉会 芸能クラブ 夜神楽公演

日本遺産「神々や鬼たちが躍動する神話の世界 ～石見地域で伝承される神楽～」

モニターツアー 日程

2023年10月27日(金)～29日(日)
2泊3日

モニターツアー 参加者

- 身体障害者：1名
- 視覚障害者：2名
- 聴覚障害者：3名
- 介助者：2名
- オーガナイザー：1名
- 添乗員：1名

移動手段

- 1日目：飛行機・貸切バス
- 2日目：貸切バス
- 3日目：貸切バス・飛行機

プログラム

- ・出雲大社 参拝
- ・かなぎウエスタンライディングパークにて
乗馬体験
いわみかぐら
- ・石見神楽 鑑賞
- ・はまだ お魚市場
いわみぎんざん
- ・石見銀山 見学



いわみ福祉会 芸能クラブ 夜神楽公演

上演演目 豊穡(じんりん)、弁慶(べんけい)、鬼比須、大蛇
 本公演は鑑賞だけでなく、文化芸術を通して市民の意識を高める「芸術鑑賞・鑑賞イヤー」の取り組みです。
 日 時：令和5年10月28日(土) 17:30開演～19:30終演予定
 会 場：社会福祉法人いわみ福祉会 桑の木園 特設会場
 〒697-0223 島根県浜田市桑木町東1-100-2 TEL: 0855-42-0014 FAX: 0855-42-1151
 入場無料 ※感染対策にご協力をお願いします。
 主 催：一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会、社団法人日本芸術文化振興会、文化庁
 企画協力：社会福祉法人いわみ福祉会
 協力：障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク
 連携・協働：障がい者の文化芸術活動推進協議会
 2025大阪・関西万博に向けた文化芸術ユニバーサル・ツーリズムプロジェクト
 2025年大阪・関西万博を契機に、障害者が文化芸術を享受する機会を増やす
 施策を実施する一環として取り組みを通じて、国内外の障害者をはじめ、誰もが
 誇りを持って、そして社会参加の力をつけることを行う「全国障害ユニ
 ヴァーサル・ツーリズム」の実現を目指します。
 ユニバーサル・ツーリズム推進で、「障がい者福祉活動」の推進を
 目指して、特設会場での神楽鑑賞イベント、国内外の障害者が楽しむこと
 ができるように「ユニバーサル・ツーリズム」の推進に取り組んでまいります。
 2025年大阪・関西万博へと続きます。
 お問い合わせ：一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会 Mail: nihonshu@net10.jp
 会場：社会福祉法人いわみ福祉会 桑の木園 〒697-0223 島根県浜田市桑木町東1-100-2 TEL: 0855-42-0014 FAX: 0855-42-1151

鑑賞サポート

- ◎音声ガイド
- ◎手話通訳
- ◎舞台上での手話通訳

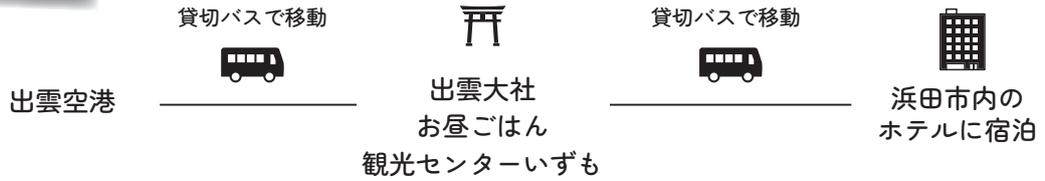
舞台も衣装も
障害当事者の方が
携わって制作しています



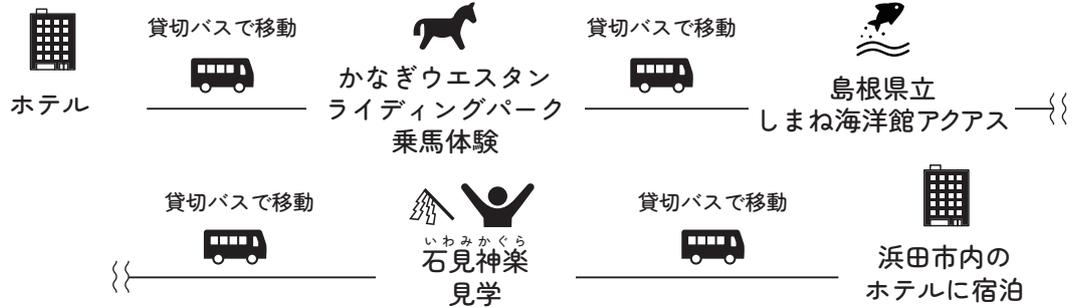
会場に投影された
演目紹介。
この旅では「情報保障」
がキーワードの一つでした

モニターツアー
行程表

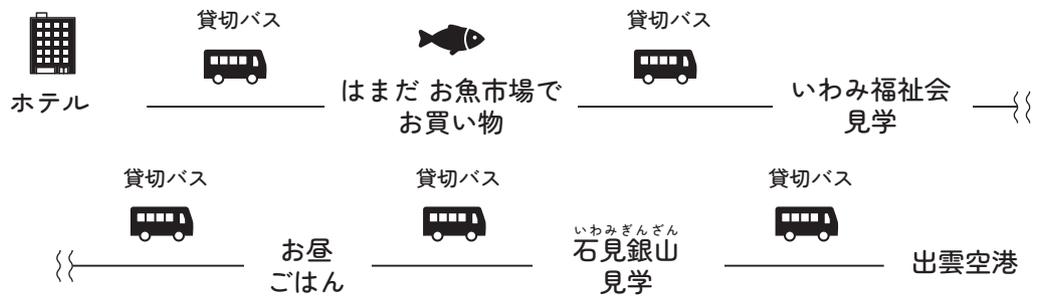
1 日目



2 日目



3 日目



今回のモニターツアーを基に
モデルツアーを造成しました

詳細は
こちら▶



商品名	【ユニバーサルツーリズム島根】 体験型ツアー 島根伝統芸能「いわみ福祉会 石見神楽」 貸切公演 日本神話に触れる旅 3日間	備考	【団体向け】 最少催行人員：20名 ・催行人員を下回った場合でも御人数分の旅費のお支払で実施可能 ・視覚障害、聴覚障害の方や多言語対応のサポートも可能です（別途見積もり）
出発地／帰着地	出雲空港 / 出雲空港		
ホテル	リフレパークきんたの里		
室定員	定員		
食事条件	朝食 2 回、夕食 2 回（きんたの里 / 石見福祉会）		
送迎	有限会社ぜん		
価格帯	¥151,000 ~ ¥160,000 / お一人様		

行程表	
1 日目	出雲空港 ⇒ 出雲大社（観光）⇒ 道の駅 がいせ仁摩（休憩）⇒ リフレパークきんたの里
2 日目	リフレパークきんたの里 ⇒ かなぎウエスタンライディングパーク ⇒ リフレパークきんたの里 ⇒ いわみ福祉会 石見神楽 鑑賞 ⇒ リフレパークきんたの里
3 日目	リフレパークきんたの里 ⇒ 石見銀山世界遺産センター ⇒ 道の駅 がいせ仁摩 ⇒ 出雲空港

作成：株式会社セントラルツアーズ

あいサポート・アートとっとり祭、三朝温泉美術旅館

日本遺産「六根清浄と六感治癒の地 ～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～」

モニターツアー 日程

2023年11月10日(金)～12日(日)
2泊3日

モニターツアー 参加者

身体障害者：1名
介助者：2名
オーガナイザー：2名
添乗員：1名

移動手段

1日目：在来線・福祉タクシー
2日目：福祉タクシー
3日目：福祉タクシー・在来線

プログラム

- ・鳥取砂丘
- ・砂の美術館
- ・倉吉白壁土蔵群
- ・三朝温泉
- ・三朝温泉芸術展示 鑑賞
- ・三徳山 三佛寺 投入堂(展望台)
- ・あいサポート・アートとっとり祭 舞台鑑賞



鑑賞サポート

- 手話通訳
- 要約筆記
- 音声ガイド
- 車椅子席
- 来場が難しい方への動画配信

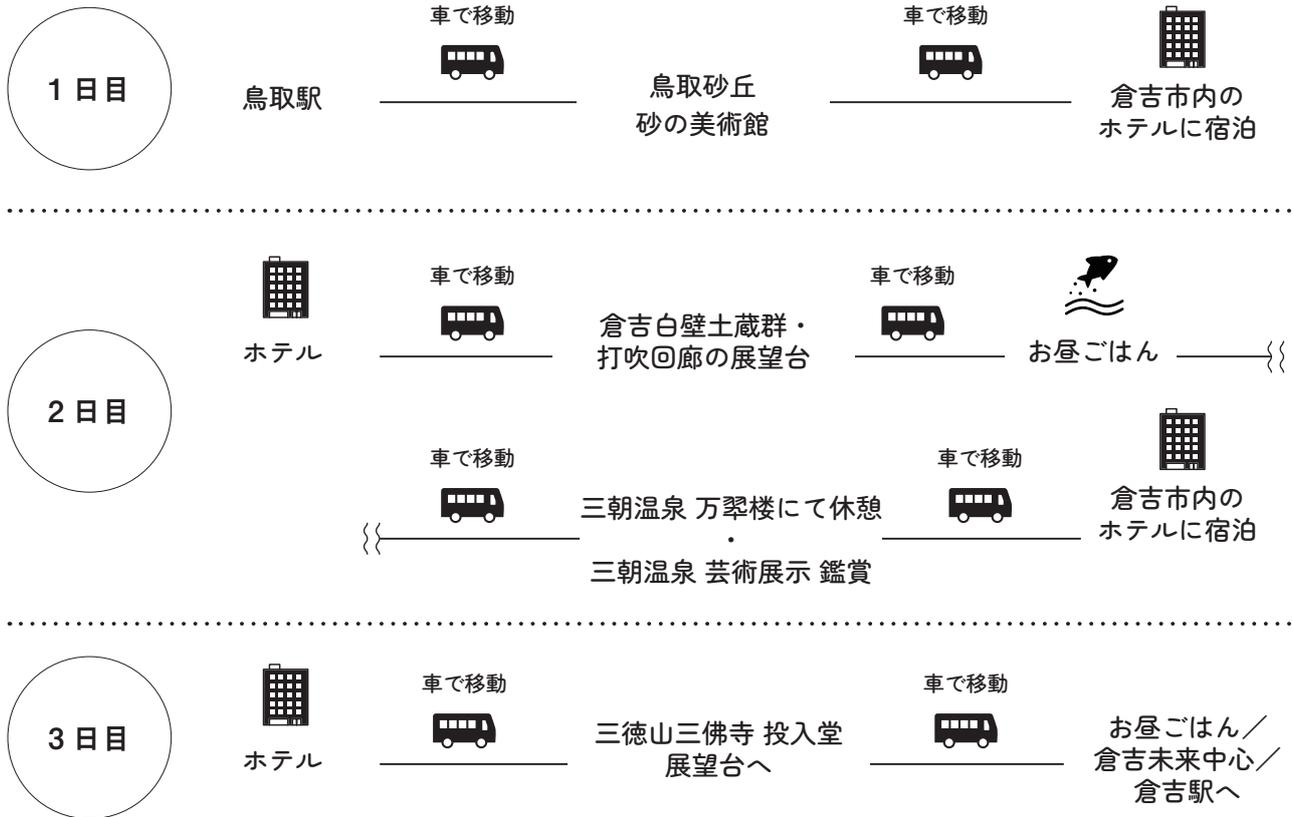


鳥取砂丘にも
行きました!



足湯でほっこり休憩

モニターツアー
行程表



今回のモニターツアーを基に
モデルツアーを造成しました

詳細は
こちら ▶



商品名	【ユニバーサルツーリズム鳥取】 福祉タクシーで行く！鳥取砂丘・倉吉2日間(ユニバーサルルーム泊)	備考	【個人向け】 最少催行人員：3名 ・催行人員を下回った場合でも御人数分の旅費のお支払で実施可能 ・観光入場料は現地払い(手帳の所持状況で金額が変わるため) ・視覚障害、聴覚障害の方や多言語対応のサポートも可能です(別途見積もり)
出発地／帰着地	鳥取駅 / 倉吉駅		
ホテル	倉吉シティホテル		
室定員	ユニバーサルツイン(ベッド2台) + シングル1室		
食事条件	朝食1回		
送迎	運行タクシー会社		
価格帯	¥59,000 ~ ¥66,000 / お一人様		

行程表	
1日目	鳥取駅 ⇒ 山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンター ⇒ 倉吉シティホテル
2日目	倉吉シティホテル ⇒ 倉吉白壁土蔵群 観光案内所 ⇒ 青山剛昌 ふるさと館 ⇒ 道の駅大栄 ⇒ 倉吉駅

作成：株式会社セントラルツアーズ



バリアフリー演劇

東京演劇集団 風

「ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち」

～世界遺産・奄美大島を舞台に～

モニターツアー 日程

2023年11月22日(水)～24日(金)
2泊3日

モニターツアー 参加者

身体障害者：4名
知的障害者：1名
介助者：7名
オーガナイザー：1名
添乗員：1名

移動手段

1日目：飛行機・福祉タクシー・徒歩
2日目：福祉タクシー
3日目：福祉タクシー・飛行機

プログラム

- ・奄美大島世界遺産センター見学
- ・島内観光
- ・バリアフリー演劇
東京演劇集団 風「ヘレン・ケラー～ひびき
合うものたち」鑑賞



鑑賞サポート

- ◎バリアフリー日本語字幕・英語字幕
- ◎音声ガイド
- ◎事前の舞台説明
- ◎舞台上での手話通訳
- ◎車椅子席

奄美大島世界遺産
センターを見学



奄美の海上にて。

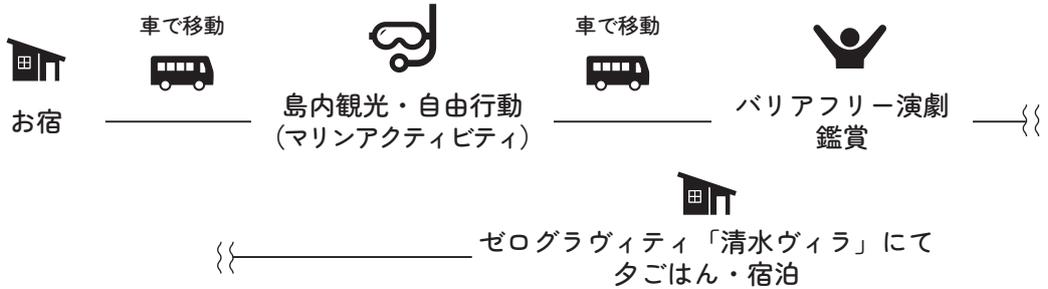


モニターツアー
行程表

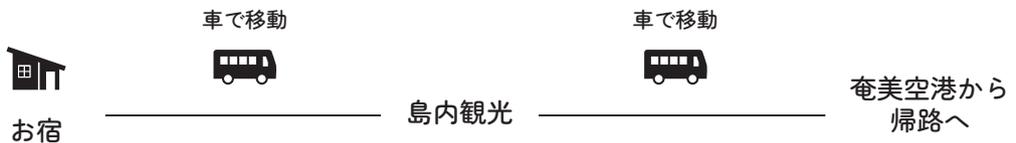
1 日目



2 日目



3 日目



今回のモニターツアーを基に
モデルツアーを造成しました

詳細は
こちら▶



商品名	【ユニバーサルツーリズム奄美大島】 体験ダイビングで「ゼログラヴィティ」バリアフリー ツアー 3 日間	備考	【個人向け】 最少催行人員：3 名
出発地／帰着地	奄美空港／奄美空港		<ul style="list-style-type: none"> ・催行人員を下回った場合でも御人数分の旅費のお支払で実施可能 ・観光入場料は現地払い（手帳の所持状況で金額が変わるため） ・視覚障害、聴覚障害の方や多言語対応のサポートも可能です（別途見積もり）
ホテル	ゼログラヴィティ「清水ヴィラ」		
室定員	ツイン 3 名様 1 室		
食事条件	朝食 2 回、夕食 2 回（ゼログラヴィティ）		
送迎	一般社団法人ゼログラヴィティ		
価格帯	¥95,000 ～ ¥108,000 / お一人様		

行程表

1 日目	奄美大島空港 ⇒ けいはん ひさ倉 (昼食) ⇒ 奄美大島世界遺産センター ⇒ 島人 mart 住用店 (休憩・買物) ⇒ ゼログラヴィティ・清水ヴィラ
2 日目	ゼログラヴィティ・清水ヴィラ ⇒ 体験ダイビング ⇒ ゼログラヴィティ・清水ヴィラ (※ダイビング終了後は休憩・自由時間となります。車両に空きがあれば付近観光へのご案内も可能です)
3 日目	ゼログラヴィティ・清水ヴィラ ⇒ 浜千鳥館 (休憩・お土産) ⇒ 奄美大島空港

作成：株式会社セントラルツアーズ

特別
報告

わたしたちは行く。

好きなばしょ、好きなこと、好きなもの、好きなひと。

ここではない、どこかへ。



ふだんは
旅行会社の社員さん

モニターツアーを
全面的にサポート

参加者・協力者の
コメントもたくさん

三浦さんと語る！

モニターツアー



今回実施された5回のモニターツアーには
障害のある方とその介助者に参加していただき、
ユニバーサル・ツーリズムにおける課題・問題点を
ともに見つけ、考えていただきました。

また、旅行社の協力体制も得ることができ、
手配から添乗まで、さまざまな役割を担っていただきました。

この「モニターツアー奮闘記」は、
ツアーを全面的にサポートした三浦さん（旅行会社社員）の振り返りと、
それに対する参加者の声をまとめたものです。

01 手配編

旅行の計画を立て、参加する方それぞれの事情や必要な配慮についてたずねる。乗車券や特急券を予約して、鉄道を利用する。当たり前なのが、障害があるためにスムーズにいかないようです。旅行に出発する前の、手配や準備に関するお話です。

介護される側だって忙しい

三浦さん：いちばん初めのツアー、山梨へ行くための準備段階の出来事です。障害者割引を使った新幹線の手配で、東京 - 大阪間とかはやったことがあるんですけど、新大阪→東京→新宿→小淵沢→清里と、いろんな路線を手配するとき、知らない「ルール」が山ほどありました。

まずは乗り換え案内で、経路を調べます。で、その最適なルートにちょっと余裕を持った配慮はしたつもりだったんですけど、例えば接続をするのに、「車いすの方は〇〇分以上確保しとかなないとけない」というルールが実は駅ごとにあってですね。日本に駅って何駅あるねんって（笑）。

で、本数も少ない駅だと、「(この電車に乗るしかないよな…)」と思って組んだ後に、鉄道会社から「そ

れはできません」という差し戻しがあったりして。今だったら、事前に（駅ごとのルールを）確認しようって最初から思えるんですけど、恥ずかしながら私はその術を知らなかった。

で、差し戻しがあったら、お客さんにお断りを入れる、確認してもらう、折り返しの連絡が再度来る、というやり取りが発生します。

ツアー中にお聞きした話では、新幹線のチケット購入のために毎回新大阪に行かれているとか。介護を受けている方だって、当たり前忙しいんですね。

「この1個のチケット取るのに、どれだけ時間使うねん」「令和の時代になんだこれは」というのは率直に思いました。

平下さん（車いすユーザー）に聞きました

JRのルールは複雑やよね。運賃のことも駅のことも、いっぱいルールがあって、それを全員が知っているかということ、そうでもない。慣れている人しかわからへんかったりするから、なんでも時間がかかったりする。

それから、手帳がないと買われへんかったりするから、介助者に「ちょっと行ってきてー」ってお願いすることもできひん。

でもそうかといって、現場でも（障害者手帳を出さんでもよかったり、表紙しかみてへんかったり、そんなんやったら「コピーでええやん」と思ってしまうこともあります。

払戻しにしても、代理の人が駅員室行って、ハンコもらって、後日また本人が行ってもらうという手間が二重であったりもします。

アナログなルールに縛られすぎてるなあとは思ったりもするけど、すぐには変わらないというか、そんなもんだと慣れてしまっているところもあります。

確かに新幹線のチケットは発券しに新大阪に行かないとあかんけど、いつも対応してくれるNさんみたいに、要領よく「わかりました！」ってテキパキ対応してもらえると、そこは安心につながるよね。

自分のことは自分で決めたい。あたりまえのこと

三浦さん：今回のツアーを実施するとなって、参加者の方々にどんなサポートが必要か、現状はどのような具合かなど、事前に当事者（もしくは介助者）にヒアリングします。いま振り返ると、このヒアリングを少し軽く見ていた感は、正直あります。

Google フォームを使って大量の質問を投げさせてもらったり、お客さまによってはいきなり LINE アカウントを交換させてもらって、聞けることはどんどん聞いてました。

色々な書類を書いて、「あれもして」「これもして」という方法より、LINE でパッとやりとりするほうが、もちろんケースバイケースなんですけど、やりやすいと感じるお客さまも居る。だから今回もこの手法でいけるかなって、思い込んでいた部分がありました。

でも例えば、ALS [筋萎縮性側索硬化症] のお客さんとお付き合いを始めてみると、そう簡単ではないなと考えさせられました。その ALS のお客さまが介助サービスを受けるうえで大事にされているのは「自己決定」であると。これが根幹にある。介助者の方にメール返信をお願いするのではなくて、自分で入力するために、視覚入力のためのボードをその都度セッティングされるかたもおられます。

また、事前情報がないまま大量の質問を投げられて困惑された方もおられました。

着替え、トイレ、お風呂など、圧倒的に時間がかかる中で、隙間を見つけて何らかの介助手段を使って返信をするから、連絡行為そのものがそんなに容易ではなかったわけです。

LINE で気軽にやりとりできるのは私の強みやし、お客さんもきっとやりやすいんだろうと思ってた通信手段だったわけですけど…。

「自分のことは自分で決めたい」というあたりまえの視点に立つと、いろんな手段がありますね。メール、LINE、電話、Zoom（オンライン会議ツール）、もちろん対面も含め様々なツールの特性について考えるきっかけになりました。



日永さん（車いすユーザー）に 聞きました

ALS（筋萎縮性側索硬化症）を患う日永さんとは、オンライン会議ツールを使ってインタビューさせていただきました。

回答者：日永さん

口文字：布川さん（介助者）

質問者：三浦さん

三浦さん：事前のヒアリングって、やはり大変なものだったのでしょうか。

日永さん：最初は LINE でのやりとりで不安定な気持ちになった。想像が膨らんで、事前に楽しみにしてたぶん、本当に行けるのか不安になった。特に飛行機のストレッチャーの部分など。前例がないのかな？と心配になった。

Zoom でのやりとりを経てイメージができてほっとした。やはり対面や、文章だけでなく、見てわかりやすいやり取りの方法が安心する。Zoom をしたあとは LINE のやり取りもためらいなく受け取れるようになった。

インタビューの続きは 22 ページ下段に掲載しました。

ポイントが貯まらないんです



三浦さん：例えば車いすの方が新幹線のチケットを取ろうとすると、駅に出向くか事前に電話をしないといけません。そして申込用紙に書かないといけないことが2～3枚にわたってあります。ご利用の車いすで歩けますか、電源使いますか、医療機器ありますか、といった内容で、違う駅にいったら、また最初から書かなくてははいけない。

もしくは、WEBフォームに情報をあれこれ打ち込んで、折り返しの電話を待つという手もありますが、その場で席が確定するわけじゃないんです。オンラインで（予約が）完結しないがゆえに、何かと理不尽な思いをされることもあるようです。

尾上さん（車いすユーザー）に聞きました

コロナ前までは出張の機会が多く、毎週新幹線に乗っていました。往復使うので、年間で150回くらいは乗っていたことになります。でも、ポイントは全然貯まりませんでした。電話で事前に予約を入れて駅長室までチケットを引き取りに行くという、アナログな予約・購入システムだからです。私が電動車いすに乗り始めた1980年代半ばから、40年間、ずっと続いています。

この「昭和の仕組み」によって、障害者も駅員も旅行業者も、誰もが不便を強いられています。航空会社のようにWebから予約・購入ができればスムーズに利用できる上、ポイントも貯まるのになあ（笑）

p.21 日永さんインタビューの続き

三浦さん（質問者・添乗員）…㊦／

日永さん（参加者）…㊦／布川さん（介助者）…㊦

㊦：介助者に遠慮してしまうときってありますか。どんな時ですか。

㊦：ない。信頼関係ができてから。

㊦：今回のツアーで、三浦はどんな存在でしたか？ どんどころが特にそう感じたのでしょうか。

㊦：家族みたいな存在。車での移動、ご飯を食べている時や会話を経て親しみが湧いた。

㊦：日常生活で、「自分の意見が尊重されているな」と感じる時と、「尊重されていないな」と感じる時の違いって、どんどころにありますか？

㊦：今回のツアーでは、蝶々の博物館に行きたかった…。日頃は、尊重されているといつも感じている。（それは）話を聞いてもらえるから。

㊦：（上記の答えを受けて）日永さんに芯があるから。

㊦：今回ツアーに参加されて、「旅」のイメージは変わりましたか？

㊦：すごく変わった。怖いもの無しになった。（今まではむしろ怖いが勝って動かない部分もあった）

㊦：次に行ってみたいところはどこですか？

㊦：生まれ育った福岡の久留米、八女、柳川。自然のバリアがバリアフル！

㊦：自然の楽しみ方、勉強します…！

日永さん、布川さん、貴重なお話をありがとうございました。

あたらしい知見や今後の課題

●予約プロセスについて

旅行会社側が、障害者向けの複雑な予約ルールを理解していることは求められるスキルであるが、障害当事者の経験値と比べれば、圧倒的な差が出てくる可能性は否めない。そのような場合、互いの経験の利を生かすような、相互理解の場・フェーズを設けることはできないか。そのうえで、より良い提案をすることが重要なのではないか。

ただし、旅行業界や社会全体を見渡したとき、今まで以上の効率化やコストパフォーマンスに主眼を置かれてしまうと、前述のような相互理解・相互発展の過程は後回しになってしまう。まずはスタッフ一人ひとりが主体的に、ケースバイケースの対応もできるよう、時間と心の【余裕】をもたらすような仕組みづくりが求められる。

●参加者のヒアリングについて

障害の有無や特性、年齢層や生活スタイルによっても、コミュニケーションのやりやすい手段は変化しうるため、「ヒアリング前のヒアリング」、つまりアセスメントを大切にすることで、円滑な旅行手配につながると考えられる。

たとえば、p.21で紹介したALSの参加者は、いちどオンライン会議ツールで互いの顔を見ながらのやりとりを経て「ほっとした」といい、事前の顔合わせの重要性が示唆された。また別のALSの参加者は、「LINEなどのツールは自分にはマッチしていた。大変ではあるけど苦ではない」と振り返り、チャットツールの有用性も感じられた。

一方で、視覚障害の参加者2名は、「メール」を第一選択に選んだ。読み上げソフトとの親和性からか、メールの方が使いやすいとのことだった。さまざまな選択肢から、よりよい方法を探るきっかけが必要である。

今後のユニバーサル社会では、旅行申込書などの記入についても、慣例や原則に固執することのない柔軟な対応が求められるだろう。「決まりなので」と対応するのではなく、必要事項をおさえるための「聴きだす力」の構築も必要である。

02

移動編



家を出発して駅に着いたら電車に乗って、目的地まで。急いでいるときにタクシーをひょいと捨てるなど、多くのひとにとっての“あたり前”が、できない場面が多くあります。ユニバーサルな視点での「移動のはなし」をお聞きしました。

「やっぱり今日ちょっと早く行こうかな」ができない

三浦さん：慣れてる人だったら、多分最初にそれを調べるんですけど、例えば山梨ツアーで最初の目的地が一番近かったとある駅。当初この駅で降りる予定にしていたんですが、車いすの方を送り出しておきながら、駅にエレベーターがないことに手配した後で気付いたんです。当然あるだろうと疑いもしてなかった。これは反省点の一つです。すぐにお客さんに連絡をとって、「〇〇駅まで乗り過ごしてください」とお願いして、その駅に送迎用の車を手配しました。

例えば、朝早い列車に乗ろうと計画を立てたとしても、経験済みの皆さんはわかっているんですけど、例えばホームドアのない段差のある駅だとスロープが必要になるのですが、無人駅で朝早い列車に乗ろうと思ったら、人がいないのでスロープが出せない。出すとなると、片道20分くらいかけて2～3つ先の駅から、駅員さんがスロープ持ってガタゴト移動してくるんです。で、スロープ使って車いすを乗せたら、またスロープ持って元の駅に戻る。私たちはとてもありがたいですけども、鉄道会社さんは逆にそれでいいのかなと勝手に案じてしまいました（苦笑）。それにしても、事前に人員の配置が必要なものなので、「やっぱり今日ちょっと早く乗るわ」という自由な動きができないんですよ…。

ともあれ、この経験をして以降、事前の確認事項も明確にわかるようになりましたし、乗り継ぎの時間感覚も身につきました。第何希望まで聞いておくということも必要です。

今村さん（車いすユーザー）に
聞きました

「急がば回れ」という言葉があるように、何事も当事者の話に耳を傾け、一緒に考えていくことが重要で、回り道かもしれないですけど、結局それが一番みんなのため、世のためになる近道であったりするんですよ。かつては公共交通機関、公共施設といった「公共」の当事者の中に、障害のある人が含まれずにいた時代が長く続いていて、それが意図的であっても「仕方ないこと」であって「差別」だという認識はないという世の中だったんだと思います。なので、いま国交省などの会議に当事者参画が当たり前になってきましたが、それは諸先輩たちの運動のおかげなんですよ。

その長い運動の歴史の上で、国連の障害者権利条約ができ、国内の障害者関連の法制度も整い出し、そこにTOKYOオリ・パラの開催と「バリアフリーはその国の品格を示すもの」と公言される赤羽国交大臣が誕生したことと、そのチャンスを逃さなかった現役の私たちの運動が噛み合って、この数年で日本のバリアフリー政策は大きく前進し始めたんだと感じています。各省庁の中に障害者の問題に真摯に向き合って一緒に取り組んでくれる人は、「稀」と言ったら失礼ですけど（笑）、必ずいるんですよ。とはいえ、まだまだ課題は山積しています。バリアフリーマップだとかバリアフリーツーリズムというものの自体が不要な世の中にしたいというのが究極な願いであり目標です。

車じゃなくて“あなた”を借りたい

三浦さん：奄美でのことです。ツアーに参加したいと手を挙げてくださっている方が5名いらっしゃって、皆さん大型電動車いすでいらっしゃる。「移動どうする？」からのスタートでした。

移動は基本的に車いすのまま。乗り移りはかなり難しいという方もおられます。ふだん、身体に合った車いすを使っているから、それをいきなり合っていないところに座れというのは、むちゃくちゃしんどい。

車いすのまま移動できる手段で挙げられるのはリフトバスなんですけど、リフトバスは島にはなかった。次の選択肢は介護タクシーになるんですけど、大型の電動車いすのサイズでは、乗れないんです。

結果的に、奄美大島の訪問看護ステーションのご厚意で、普段送迎で使ってるお車を拝借して、物理的な問題は解決したんですけど、「あれ、誰

が運転する？」って（笑）それで今回、奄美大島のお宿の方たちが「僕たちやりますよ」ってすごすご尽力してくださって、島での移動をサポートしてくれました。

これで宿の送迎はクリアできたんですが、例えばここに観光が入った瞬間、NGになるんですよ。観光目的での移動をなんとかしなくてはならない。

最終的には、タクシー会社さんに電話して「ドライバーさんだけ出してもらえませんか」って（笑）そしたら「やってみます」って乗ってくださって「よっしゃ、これでいける」って。

大事なのは、現地の方の協力と、受け入れる施設側のホスピタリティと、旅行のコンテンツそのものなんやなって、【自分がやったんだ～！みたいな達成感が勘違いだったかも】と恥ずかしくなって、ちょっとした脱力感もありましたね。

お車を貸してくださった訪問看護ステーションの

＼ 宮田さんに聞きました ／

『バリアフリー演劇』の開催に向けて、実行委員長として準備を進めるなかで、「ツアーを組んでくる方もいらっしゃるらしい」と聞いていました。「移動やホテルは大丈夫なのか？」と心配していましたが、「旅行会社の方が手配するので大丈夫らしい」というので、そこには触れず、ほかの準備を進めていました。

そんな中、「島に電動車いすを載せることができる介護タクシーなどがなく旅行会社の方が困っている」という噂を聞き、コンタクトを取ってみることにしました。

島にはリフトバスなどの資源はありません

が、人情や『自分たちでやらねば！』という思いはどこよりもあると思います。なので私だけでなく、ほかの事業所や人が『手伝うよ！』と名乗りを上げてくれ、少しではありましたが、お力になれたのでは？と思っています。



よい人間、よい会社、よい理念

三浦さん：ちなみに山梨で出会ったリフトバス会社さんも素晴らしかった。ちょうどこの時期はリフトバスの奪いあいといいますが、もともと台数が少ないのもあって、予約が埋まっていたんですね。隣の県から出せるかな…と長野でバス会社さんを探してたら、営業区域の申請をきちんとされていて山梨でも走れるということがわかり、お願いしました。

このときの運転手さんにも本当にお世話になって。運転もすごくうまいし、車いすを座席に固定したりだとか、情報のサポートとか、技術も配慮もプロフェッショナルでした。お人柄も本当に素晴らしくって、お話を聞いたら、会社オーナーさんの意向でもあるんだそうです。「今後こういった車いすのお客様にもっと利用してもらえよう、スタッフ一同ちゃんと対応できるようにしている」と。会社のマインドなんでしょうね。今後一緒にお仕事したいと強く思いました。

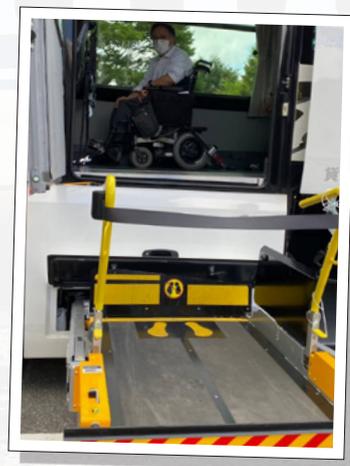
バスの運転手（アリーナバス）

＼ 竹内さんに聞きました ／

参加者の皆さん、明るくてポジティブなメンバーでした。失礼ながら、健常者と何も変わりません。旅を満喫している様子でしたね。旅慣れしているのかな？と思うほどでした。

見学場所はとても狭く大変でしたが、現地では降車場所などを配慮いただき感謝しています。レストランの入口は難しかったと思いますが、乗り越えておられました。

天気も良く、気持ちの良い日でしたね。リフトバスは、乗降がスムーズで楽です。当然、行動範囲も広がりますね。当社としては、リフトバスの所有を誇りに思っていますし、健常者と同じ行動や笑顔をいただき、リフト担当者冥利に尽きます。これからも積極的にアウトドアを楽しめるように、お供できれば幸いです。



今村さん（車いすユーザー）の格言紹介

変化というのは、私たちが思うようなスピードでは決して起こらない。人びとが一緒になって、戦略を立て、分かち合って、あらゆる取っ手に可能な限り手をかけてみて——そうした年月の積み重ねがあって、初めて変化は起こるものだ。少しずつ、苦しいほどゆっくりとではあっても、物事は動き出す。そして、ある時突然、まるで青天の霹靂のように、変化は起きるのだ。

出典：ジュディス・ヒューマン、クリステン・ジョイナー、わたしが人間であるために 障害者の公民権運動を闘った「私たち」の物語 [電子改訂版] (Japanese Edition) (p.236). Kindle 版



あたらしい知見や今後の課題

●課題解決のための新サービス

新幹線の予約がWEB上で完結しなかった件については、2024年2月26日からJR東日本において障害者割引乗車券と新幹線車椅子対応座席の予約が始まるなど、問題解決に向けての前進をタイムリーに知ることができた。長い間、障害当事者からの「要望」があり、それが反映された事例である。

「JR東日本 web（えきねっと）での障害者割引乗車券と新幹線車椅子対応座席の予約が始まりました！～障害のある方・サポートが必要な方への新たなWebサービスについて～」（認定NPO法人DPI日本会議ホームページより）<https://www.dpi-japan.org/blog/workinggroup/traffic/jr-east-eki-net/?fbclid=IwAR2prRi36f6f5dxGQpqShLZChsPvkV3S4uXNpMJKgpjPykNpvHlss4sXg>（2024/3/27 閲覧）

●サステナビリティを育む仕組みを

航空券の手配時に散見される【情報提供の二度手間による時間のバリア】（事前に車椅子情報を伝達しても、空港で同様の手続きに時間を要する問題）についても、航空各社で課題解決のためのサービスが誕生している。とはいえ、現場レベルではスムーズにいかない事案がたびたびあるようなので、逐次、発生した問題を記録しデータベース化するなど、課題解決につなげていくことが、持続可能なサービス提供のためにも必要なのではないか。

●福祉車両の増加を

モニターツアーを通じて、リフト付きバスの利便性・有用性にあらためて気付かされた。公共交通機関と比べると、障害当事者および介助者は物理（時間や移動距離）的にも精神的にも、相当の負担を軽減できる。全国的にこのような福祉車両が増加することを望むが、維持管理費用、人手不足問題は常にあるだろう。新たに始まる福祉分野でのライドシェア制度が、障害のある旅行者に安全面も含めて適応し、移動の選択肢が増えることが期待される。



03

宿泊編



たとえば、目が見えなくなったら。たとえば、車いすでの生活がスタートしたら。旅行に出かけたり、宿に泊まる時はどうなるでしょうか。施設環境（ハード面）と“ひと”（ソフト面）、両面からのお話です。

「こちらが鍵です。いってらっしゃいませ」

三浦さん：島根のホテルに着いて、客室に行くときのお話です。例えば視覚障害をお持ちの方は、部屋番号の確認を、いつも手で触ってやってらっしゃるんです。番号の部分に触って、その凹凸ぐあいで部屋を確認する。

宿泊予定のホテルが、部屋番号を触って識別できるような配慮をしているかどうかなんて、正直考えたこともなくて。「視覚障害の方が行きます」っていうFAXは流してましたけど、チェックインが済んだら「はい、こちらが鍵です。いってらっしゃいませ」で終わるんですよね。当然といえば当然なんですけど。

そこで当事者の方が、「僕はエレベーターの位置とかが分からないと動けないので、ついてきてもらえますか」と伝えると、ホテルのスタッフさんも

ついてきてくださった。残念ながらそのホテルの部屋は、文字が飛び出ているタイプじゃなかったの、分かりようがなかったんですが、もうお一方の視覚障害の方や介助者の方が隣の部屋だったので、「じゃあ朝食行く時は声かけますよ」みたいな感じで、助け合ってクリアしてくださっていました。

今回はあくまでモニターツアーですけど、じゃあこれが一般のツアーのお客さんだったらどうなっているか。客室やお部屋の番号をはじめ、どこに何が置いてあるか、事前に調べておくとか、朝食ビュッフェだったら、ホテルの人に立ち会ってもらうようお願いできたかなとか、私ができること、めっちゃあるなっていうのに気づきました。本来、そういうところから配慮が始まっているんだと思います。

上菌さん（視覚障害者）に聞きました

『僕』と『視覚障害者一般』は、同じ障害を抱えているとはいえ、“同じではない”というのを前提に聞いてほしいんだけど、僕はサービス提供者にぜんぶお膳立てしてもらうのは、つまらないと思ってる。

だからホテルを利用したときも、ホテルの人に全部やらしてもらおうと思ってたわけじゃないんだけど、三浦さんに全部頼むのも違うから、朝食は別々に行ったんだよね。朝食はホテルの方が手を貸してくれたほうがいいと思ってるから。

あと、よく困ることといえばアメニティ。あとから「あれ、お茶あったの?」「〇〇あったんだ」って気づくことが多い。最近はフロントに「ご自由にお取りください」って置いてある

こともあるけど、これも気づかないことが結構ある。最近は「Be My Eyes」や「FaceTime」（いずれもスマートフォンのアプリ）を使って、客室内で第三者の援助を得られる人も多いね。

何か助けてほしいことがあった時、介助者や医療者がやってくれたほうがラクではあるんだけど、僕は、そのへんにいるひと、観光客も含めてね。そういう人に手を貸してもらえたらな、と思ってる。

買物とかに行っても、たいてい心優しい人が「何か必要ですか?」って声をかけてくれるわけ。でも、頼めるものは頭の中にあるものだけで、例えばデザートが10種類あったとして、季節限定の11種類目があるとかわからないの。本当は全種類、知りたいよね。

おどろきのバリアフリールーム率！

三浦さん：奄美大島にある「ゼログラヴィティ^{せいすい}清水ヴィラ」さん。以前から予約サイトやSNSなどで“バリアフリーかつアクティビティも楽しめるお宿”として、存在は気になってました。

当初は、全体の利便性も考えて名瀬地域でお宿探しをしていたんですが、車いすユーザーの団体手配って結構すぐに壁にぶつかるといふか（苦笑）。これは「あるある」だと思ふんですが、お宿に＜そもそもバリアフリールームがない＞もしくは＜あったとしても1～2室くらいで、複数名で泊まりにくい＞という点で難航しやすいんです。

今回もツアーへの参加を募ってからすぐに多数の車いすユーザー様から手を挙げていただいて、あっという間にお宿探しに困ってしまいました。そこでふと、ゼログラヴィティさんの存在を思い出し、お問い合わせしたところ、あっさりOKをいただいて。

あらためて調べてみると、6室ある客室のうち4室がバリアフリールームという驚異の割合で、「おー！」とテンションが上がりました！

テラス、ラウンジ、共有浴室、共有トイレ、ランドリーなどのパブリックスペースから、なんとプールまで、すべてバリアフリーでした。さらに素晴らしいのが、海のアクティビティまでバリアフリーという。（※観光編もご参照ください）

物理的環境がバリアフリーというだけでなく、スタッフさんの対応などのソフト面でも広い層のお客様にマッチするんだろうなと実感した宿泊体験でした。

ゼログラヴィティ・清水ヴィラの

栗原さんに聞きました

宿泊・海遊びなどでどれだけ満足頂けたかはわかりませんが、できることは全力でお手伝いさせていただきました。クルージングをリクエストを頂き、船に乗ったことのない方も海の上を走る爽快感を味わっていただけたかと思ふます。またダイビングやカヤックにもチャレンジして下さって、満面の笑顔で海遊びをされてる表情を今でもはっきりと覚えております！

他にも、「母親と旅行に行ったことがほとんどない」という方もいらして、今回一緒に旅行に行けたこと自体が感慨深かったよう

知的障害を持つ息子さんと参加してくれた

呉さんに聞きました

ゼログラヴィティは海が目にある宿でした。小さい宿だと思ふましたが、車いすで入れる、しっかりバリアフリーができた部屋が4つもありました。食堂もきれいで、車いすでも自分達が座りたい所に座れるようになっているのかうれしかったです。

ごはんのときもまわりに気を使う事もなくみんなといっしょに話しながら笑いながら食べるごはんはほんとに美味しかったです。新鮮な刺身はやっぱり特別でした。みんなといっしょに船に乗って海の中にいるカメ達に会えたのもラッキーでした。

朝、遠いところから見えてくるお日さまを見ながら飲んだコーヒーの味も特別でした。息子とふたりで散歩した海辺も、そのとき拾った貝がらも楽しい思い出です。戻ってくる日の朝、いっしょに行ったみんなと、お世話になったホテルのスタッフの方達と写真を取るときは寂しさとうれしさで胸がいっぱいでした。ありがとうございました。いい思い出をいっぱい作って下さって楽しかったです。

2025 大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。障害を持ってる私達にもいのち輝く未来のためのプロジェクトを作ってくださいました。文化・芸術を、障害を持っていてもできる事、感じさせる事、これからはいっぱい、見せてください。私達、障害者にも、みんなといっしょにいのち輝きながら生きたいんです。

いただいた文章の言葉づかいを、なるべくそのまま掲載しています。

で、こちら嬉しくなりました。

さまざまな方達が旅行と海遊びを楽しめるように、ゼログラヴィティとしてはできることを全力で行い、楽しい思い出を作るお手伝いができればと考えております。一緒に旅行を楽しむようつもりでお出迎えしておりますので、スタッフも一緒に楽しませていただきました！ありがとうございました。

「電源欲しいな」って思った瞬間に

三浦さん：山梨でのお宿は、客室4室のバリアフリーペンションで、色々なところに配慮が行き届いていました。例えば私目線でお話すると、使おうと思っていた片方のベッドの近くにコンセントがなくて、携帯の充電したいからベッド変えようかな、と思った瞬間に延長コードが“でんっ！”と置いてある。あ、もうそのへんは想定済みなんだなっていうのが伝わってきて、すごく嬉しかった。

山梨パートでいちばん思ったのは、このペンションのオーナーさんの存在が大きいな、ということでした。介助も手話もできるし、多言語しゃべれる。それでいてすごく気さくな方で、私も多大な影響を受けています。結局、福祉や介護のためのツール全般って、その人のホスピタリティが根幹でつながっていることがすごく大きくて、むしろこういう方がいたら、多少のバリアがあったとて、満足度は高いと思います。

バリアフリーペンションのオーナー

＼ 盛上さんに聞きました ／

「バリアフリーツーリズムってどうしたら？」と大変に思われがち。「ツーリズム＝観光」で「楽しみたい」「美味しいものが食べたい」とか「知らない土地へ行く」など人によって好み・優先順位もそれぞれ。皆さんすべてのニーズに沿うのは難しく完璧とは程遠いが、毎回訪れる人それぞれが必要なものを教えてもらい「誰もが（国、人種、言語、文化、障害などの違いを超えて）訪れ、集い、交流できる場所」にするのが私たちの願いです。

このお宿がスゴイ！ 三浦さんの“推し宿”



ゲストハウス

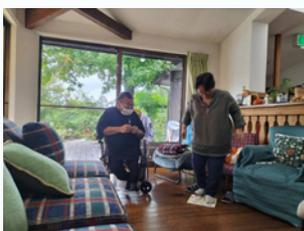
ライフクオリティ カーザ
Lifequality Casa

<https://casakiyosato.wixsite.com/lifequality-casa>



4室すべてがバリアフリーで快適！おしゃれな外・内観と美味しい食事、そしてオーナーご家族のお人柄も含め、本当にしあわせな時間でした。

全室、車いすでのアクセスができます。各部屋バス・トイレ付きで、段差のない浴室、スノコにて座ったまま入れる浴室も。



バリアフリーマリンスポーツ総合施設

せいすい
ゼログラヴィティ 「清水ヴィラ」

<https://zerogravity.jp/>



宿泊施設をはじめ、船、プール、すべてがバリアフリー設計で、だれもが快適に過ごせるようなお宿でした。

複数の車いすユーザーが参加しましたが、地域が一体となったご配慮もあり、快適に移動できました。



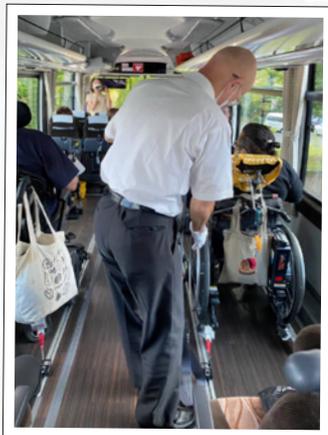
あたらしい知見や今後の課題

●フィードバックの方法はさまざま

利用者にとって使いやすく、配慮の行き届いた宿泊先の取り組みを視察することができた一方、例えば「バリアフリー設計」を明示していても、わずかな【惜しい点】が明確に感じられる宿泊先も存在した（例：シャワーチェアの有無、クローゼットに手が届かない仕様など）。これらについては、利用者による具体的なフィードバックで改善が期待できるであろうし、その伝達手段についても、現地でリアルに説明する他、写真や動画を記録・送信するなどの方法も有効性が高いといえる。

●人材や地域が持つ固有の価値の可視化

全ツアーを通して、「人材の質の高さ（＝ホスピタリティ）」に助けられた事案が多数あった。イキイキと障害者を受け入れ、スムーズに乗降・移動をエスコートするバス会社のドライバー、困っている相手がいれば地域ぐるみで「なんとかしよう」と手を尽くしてくれる施設職員、元からある建物の不便さを熟知し、対処法を提示してくれるペンションスタッフ等々、「この人・この地域と出会えてよかった」という事例がいくつもあった。合理的配慮は一方的な思いやりとは違う（p.06 参照）が、そういったやりとりから生まれる旅行者の満足感、「人」や「地域」が持つ固有の価値を可視化することは必要だと考える。



04 交流編

おぼんを置いてくれたから

三浦さん：島根ツアー初日のお話です。夕食は各自自由なんですけど、交流を大事にしたいなっていうのを私は思ったので、夕食の予約だけして、来たい人が来てくださいというスタイルで募ってたんです。せっかく日本海側に来たので、海のものがないなど。探してみたら、雰囲気も店名も良い「神楽（かぐら）」というお店を見つけました。

事前にお店に電話して、「車いすの方が行くんですけど、どうですかね」と聞いたら「いけると思うよ。実際に来てもらったこともあるし」と言っていたのと、Google ストリートビューなどで確認する限り大丈夫かなと判断して、予約しました。とはいえ下見をしてないので、お客さんにも一応「もしかしたらダメかもしれない」とは伝えてありました。

で、いざ行ったら、入口に段差はなかったんです

たとえば障害のある車いすユーザーが旅行に出かけたら。たとえば、異なる障害者同士が同じツアーに参加したら。そこにあるのはバリア（障壁）だけではないようです。当時の葛藤や交流のようすを聞きました。

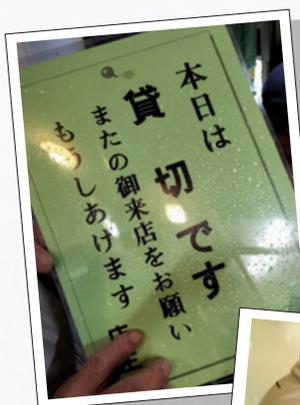
けど、お店の座席のほうまで、ギリギリ通れなかったんです。入口に入ったところで止まってしまって。私も大反省だし、お店の人もめっちゃ頑張ってくれたんですけど、通れなかった。私が本当に浅はかでした。

結局、お店の方が気合いで、入口近くの台の上にお盆とかを置いてくれて、「ここにお料理出してあげるわ、ここでよかったらどう？」って対応してくださって、飲食できるよう即席テーブルが出来ました。もうね、車いすの方も「そういう優しさが嬉しいです」って、泣いてらっしゃる。この方、すごくお酒が好きで、島根の地酒が揃ってるからめっちゃ喜んでました。大反省しつつも、お店の方のご配慮で切り抜けられた例です。

渡邊さん（車いすユーザー）に聞きました

料理の味はとても美味しかったのですが、なかなか車椅子で入れる飲食店が少ないので、仕方がないと思いますが、無理くり場所を作った感じなので、ちょっと残念でした。

でも、お店の方もとても良い方で楽しかったです。



私が手話できたら話は早いんだけど

三浦さん：これまでのお仕事では、基本的に身体障害のお客さんとお付き合いをさせていただいてたんですね。だから“聴覚障害”と聞いただけで「(じゃあ筆談だろう)」って思ってしまったのがあまりにも安直で、反省点の一つです。結局会話ってスピード感が大事じゃないですか。「次は何時に着きますよ」とか「次はどんなところで～」とか、細かな会話を筆談でやるのは厳しい。

当たり前のことですけど、誰かが発した言葉や説明について、誰かが気づいて当事者に伝えないと、置き去りにされてしまう。そういうふうな情報が保証されてこそその旅行なので、今回、手話通訳で来ていただいた方にすごく助けられました。臨機応変に何に困ってるかをすぐ見つけて、ぱぱっと対応してくださるんですよね。でも力んでる感じじゃなくて、気さくな方だったので、みなさんすごく会話が弾んでました。

視覚障害の方と聴覚障害の方が同じ空間に居ても、やっぱり意思疎通するのって難しい。でも、盛り上がった瞬間はあったんですよ。島根のツアーに参加された視覚障害をお持ちの70代の方なんですけど、「俺、〇〇行くから肩貸してよ」みたいな感じでざっくばらんをお願いしてる。そしたら聴覚障害の方もだんだん慣れてきて、「じゃあ私の肩持って」ってペアになって動いたりとか、そういう交流が生まれてた。すごく面白かったんですけど、もっと掘り下げた話をするには、視覚障害の方も、「俺ももっと話したいけど、どうすればよかったかな。結構反省だよ」と仰っていて、楽しまれてたシーンがあった一方で、私にもっとできることがあったかなって。理想論ですけど、極論、私が手話できたら話は早いよね、っていうのはまず思った。だって、勉強したらできることだから。

佐沢さん（聴覚障害者）に 聞きました

ろう者2名と中途失聴1名で参加してきました。手話通訳付きのツアーは初めてでしたが、細かな配慮のお陰でよい思い出となりました。

1日目のバスの中や石見神楽^{いわみかぐら}と出雲神社の観光地では手話通訳者と一緒に行動したお陰で、ツアーを倍以上に楽しめ、満喫した時間を過ごすことができたかな。

食事時や2日目のバスの中に手話通訳が付きませんでした。ツアーの担当者が親切に筆談で対応してくださり助かりました。

可能であれば、旅行は最初から最後まで手話通訳がつくことでバスの中で得られる観光の情報を知れたり、他の障害の方々と交流が

できたかなと思うと、今後考慮していただけると嬉しいです。せっかくご縁があって一緒に行動する意味では、手話通訳を付けて他の障害者の方と交流するタイムや、簡単な手話をみんなで学習する時間もあるとよいかと思います。

三浦さんの温かい振る舞いに感謝しています！ 今後もそのようなツアーが増えるといいですね。



「行ってみましょう、やってみましょう」

三浦さん：今回はモニターツアーだからっていうのもあるんですけど、参加者の方と同じ目線で課題を見つけることも、目的の一つでした。

普段からそうなんですけど、お客さんありきと言いますか、お客さまが行きたいところ、やりたいことに『行ってみましょう、やってみましょう』と応えるのが自分だと思ってます。



(モニターツアー参加者のアンケートより)

事前の打合せを重ねるごとに、お会いするのが楽しみになりました。

時間に関しては 優しいお気遣いの為、押し寄せ押し寄せになってしまっている事もあるのかなと思いました。

事前調査も綿密にされていたことがうかがえました。

添えて乗っている人では決してなかったですし、サポートやアシスト以上のことを常にしていただきました。

呑み処 神楽・おかみさんのお話



お越しいただいたツアーのことは覚えてますよ。やっぱり楽しんでいただいてよかったなと思っていますよ。お一人だけお入りになれなくてお帰りになるというのは残念で。みんな一緒だからね、障がいのある方だってない方だって。

(ユニバーサル・ツーリズムの) ああゆう試みは初めて知ったのですが、とてもいいな、いいことだなと思いました。

今まで車椅子の方がお越しになることはなかったですが目や耳のご障がいの方はたまにはお越しになりますよ。

対応することにためらいはないですよ。一緒にするもの。



あたらしい知見や今後の課題

● ICT の活用

障害者にとって生活の一助となるアプリケーションが高い技術で提供されており、実際に聴覚障害者や視覚障害者はそれらを駆使して、コミュニケーションをより広く・深く取ろうとしていた。一方で、アプリの数も多種多様で、使い勝手・使いどころも利用者によって異なっていたため、事前のヒアリングであらかじめ調査しておくこと、ツーリズム自体の価値向上のためには必要かもしれない。

● メリットとデメリットのバランス

飲食店において参加者を不自由な状態、残念な思いをさせた点について、事前の下調べを充実させるなど、改善策はあると思われる。しかし、店側は困難が生じたからといって来店を拒まずに、「みんな一緒に食べるのが当たり前」といったインクルーシブな精神で対応してくださった。たとえ店内のバリアフリー環境が十分に整っていなかったとしても、旅先という非日常的な空間で、ツアー参加者同士と地域の事業者が「食」の時間を共有したことについては、ユニバーサル・ツーリズムの価値が少なからず体现されていたのではないかとはいえ、旅行者と旅行社、あるいは現地の受け入れ先との合意形成を丁寧におこなうことは必要である。

● 異なる障害者同士のコミュニケーション

ツアー中、異なる障害者同士の交流が生まれたことも、本プロジェクトの特徴のひとつかもしれない。視覚障害者と聴覚障害者、身体障害者と知的障害者など、それぞれの視点で交流ができたことは、一人ひとりの視野を広げたり、価値観を豊かにする可能性を秘めている。



障害があろうとなかろうと

三浦さん：島根ツアーでは、石見神楽^{いわみかぐら}という伝統芸能を見学しました。神楽の舞いや演奏、私ははじめて観たのですがとても迫力があって、もう素直にファンになりました！

石見神楽はこの地域（浜田市）に伝わる、日本神話にもとづいた伝統芸能なんですけど、障害がある方も神楽を演じるし、きらびやかな衣装づくりも、障害当事者の方がされているということで、そういう分け隔てない舞台づくりも魅力のひとつだと思います。

ツアーに参加された視覚障害の方、聴覚障害の方も、観客として一緒に舞台を楽しめたのはとてもよかったです。口上や歌詞にも字幕がついてるし、情感たっぷりの手話もあるし、音声ガイドで舞台の実況中継もしていただきました。

「障害があったら演劇を観るのは難しいだろうか？」
「障害者が旅行に行ったとして、観光が楽しめるだろうか？」 行く先々で課題を見つけて対応していくなかで、見えてきたものはなんだったのでしょうか。

この地域の方は子どもの頃から大人になっても、お仕事の後に毎日のように練習を重ねて、口上や楽器の演奏技術を身につけるそうです。作られている衣装も、お値段を聞くとびっくりするくらいでした。

いちばんいいなと思ったのは、障害があろうとなかろうと、重要な案件を任されて、伝統職人として働かれていること。そういうプロセスや障害の有無を問わない姿勢がカッコいいなと。

今回はお弁当を食べながらの鑑賞だったのですが、視覚障害の方ですと「食べるタイミングがわからない」「何が入っているのかわからない」というご不安もあったので、このあたりの説明のあり方は私の方でもサポートできたかもしれないな、と反省しています。

／ 杉田さん（視覚障害者）に
聞きました ／

地元の人たちが熱を込めて守っている神楽の魅力が音声ガイドとともに味わうことができたのは大変有り難かった。大音量の中で音声ガイドを聞き分けるのは難しい部分もあったが、めったに体験できない貴重なものだったと言える。

また、その衣装作りの現場を訪問したり、そこに福祉の枠組みが組み込まれている話を伺ったりしたことにより愛着を感じることができた。複層的な情報に触れることで旅の後に誰かに話したいという気持ちが強まったし、実際に

土産話は大いに盛り上がった。

さらに言えば、神楽の太鼓や笛を演奏したり、面をかぶったり、セリフを習ったりすることでより五感で感じられるようになるかもしれない。また少し難解な神楽のストーリーを事前にわかりやすく学習するのもニーズがあるかなと思った。最近では、ユニバーサルな視点を意識した展示館などが増えている。そこで集まった英知を結集して誰もが楽しめる演出を追求してほしいと思う。

海ぎらいからのスキューバダイビング

三浦さん：奄美大島で泊まったお宿がいかによばらしいか、という話はもう何度もしてるんですが(笑)、水中でのアクティビティにまつわるエピソードもぜひ聞いてほしいと思ひまして。

「ゼログラヴィティ（宿泊先の名前）」さんは、もう創業の時点から障害のある方へのマリンアクティビティを構想されていたそうなんです。たとえ車いすの方であっても、“水の中で宙に浮いているような感覚”を安心して楽しんでほしいと。

今回のツアーでスキューバダイビング体験ができてとなって、「やってみたい」と手を挙げてくださった参加者の方はなんと、海は嫌いだったそうなんです。でも、その方もチャレンジ精神旺盛で、「せっかく奄美に行くなら…！」と思ひ切って申し込んでくださった。

歩行が難しい状態のお客様が一体どうやって海に潜るのか、まるで想像がつかなかったのですが、あとからお写真を見せてもらったら、インストラクターさんが後ろから抱えて、一緒に泳がれていました。

で、海から上がって最初の叫びが「最高〜〜！」と。なんかこれにはね、ジーンとききましたし、これに全て集約されているなと感じました。これまで「難しい」とされてきたことができるようになることもそうだし、「せっかくならやってみたい」と声をあげてくださった参加者の方もすごいな、と。

ダイビングのライセンスをお持ちのお客様にこの話をすると、「それってすごい技術やで〜！」って言われます。多くの方に知ってほしい出来事です。



松井さん（車いすユーザー）に聞きました

奄美大島へのツアーに参加することが決まり、「せっかくなら綺麗な海でマリンアクティビティをやってみたい！」とスケジュールになかった要望に応じていただきました。

私は重度脳性麻痺の障害があり、思い立ったら即行動！の性格。でも実は幼い頃から海が苦手で、水が怖いんです。「でもダイビングに挑戦したい」と好奇心だけでチャレンジすることに。

エメラルドグリーンの広がる沖へ向かいスイットスーツを着て、船に備え付けのリフトから海の中へ。「怖い、怖い」と叫ぶ私に、「貴方が潜りたいって言ったんでしょ〜」とインストラクターの心の後押しもあり、いざ！

海の中はまるで映像の世界。サンシャワーが降りそそぐ中、インストラクターの誘導で海底に近づいていくと、綺麗な珊瑚や魚達が出迎えてくれました。呼吸も不安でしたが、フルフェイスのマスクをして、タイミングよく耳抜きをもらい、最高のダイビングになりました。どんな障害があっても「やってみたい！」にトライできることは人生の醍醐味だと確信しました。

自然こそ見てほしいのに

三浦さん：バリアフリーって、お宿とかレストランなど建造物に関しては人の工夫次第でなんとかなる部分が大いだと思うんですけど、自然の地形だったり、その地形を活かした名所だったりするとすごく難しい。

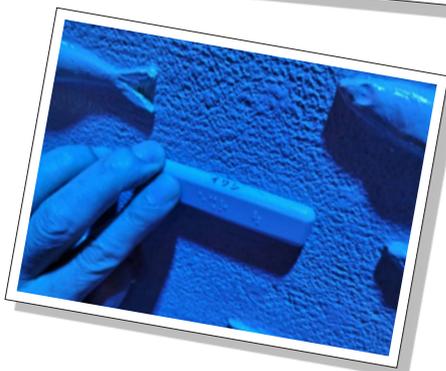
例えば奄美大島でダイビングをした車いすのお客さま。最初は滝を見に行きたいとリクエストいただいたんですが、ジャングルの中を進むので、私がお断りしてしまいました。本当は雄大な自然とか、地形が特徴の観光地とか、そういうところを見てほしいのに、福祉用具の知識も浅く準備時間も足りず今回はお手あげでした。仕方がないと分かっているけど、すごく悔しかった。また、鳥取は三徳山の展望台にある望遠鏡のすぐ下にブロック石が置いてあった。これ、背の届かない小さなお子さんとか、すごく重宝してるんだと思うんです。悪気はなく、善意だけで置いてある。だけど、車いすの方からしてみると、どかしたい対象です。結局、望遠鏡のぞけなかったのも、ここも、すごく惜しかった。

馬場さん（車いすユーザー／ALS） に聞きました

私は2018年にALSを発症したんですが、発症前は人一倍活動的で、山登りや川下りなど自然を楽しんでいました。重い障害を抱えてからは塞ぎ込んでいた時期もありましたが、またいつかアウトドアな環境や雄大な景色の中に身を置きたいなと感じていました。今回ツアーに参加して、健常者のように進めないまでも、旅に出る醍醐味や期待や感動は以前より大きく、非日常を感じることができました。

とはいえ、山があれば上から眺めてみたいし、川があれば川岸や川の中でより直接的に触れたい気持ちは残りました。そのためには、トレイル用の車椅子、人手やコース整備も必要です。ユニバーサルツーリズムを深掘りして、より大きな感動を体験できるよう工夫する余地はありそうですね。

Photo Gallery



あたらしい知見や今後の課題

●情報保障のさらなる拡大を

情報保障は障害者だけのためのものではなく、健常者にとっても有意義な仕組みであることがあらためてわかった。文化芸術の分野で、情感ある手話、字幕、音声ガイドなどの情報保障が十分に行き渡っているかといえばそうではなく、だれもが情報の受け手となれるように、それらをスタンダードにしていく必要がある。

●ネット検索のしづらさ

インターネットが普及して多くの人々がオンラインで検索し、さまざまな情報にアクセスできるようになったが、そのアクセシビリティについては、健常者であっても「わかりづらい」WEBサイトが多く存在する。

例えばバリアフリー対応を示したアイコン種類が多すぎるがゆえに、凡例が読み解きづらく不便だったり、検索システムからバリアフリー情報の絞り込みができないなど、旅行商品へのアクセスもまだまだ伸び代がある。誰もが検索しやすいWEBサイトの構築が急がれる。

●福祉用具について

福祉用具の有用性・利便性については、旅行業界でも広く知られるべきである。車いすでも砂利道を走行できるなど、移動の可能性が広がるアイテムが開発されている。デメリットは価格が高額であること、使用するには一定の知識が必要なこと等が挙げられるが、福祉業と旅行業で新たな関係を構築したり、シェアやサブスクリプションシステムの導入なども考案可能なのではないか。



●日常と非日常を行き来できる旅

ある参加者は、「旅行開始前から“楽しさ”は発生しており、日常の生活から別世界に行ける臨場感、旅立ちの朝に感じた高揚感は想像以上だった」と語る。旅先でも適切に情報を受け取ることができたとき、出会ったことのないような対象に出会えたとき、旅行者は想像を超えた感動やさまざまな気づきを得ることができる。そしてそれは旅行社・旅行者だけが創出するものではなく、受け入れ先の各地域であったり、そこに関わるさまざまな属性の人材が必要である。

あしがき

令和5年（2023年）度の取り組みを通して、文化芸術の体験や旅の体験は、障害のある人にとっての生きる糧になることを、本プロジェクトで経験として得ることができました。

とりわけ、ユニバーサル・ツーリズムを完成させるためには、多様な主体が連携して旅人を受け入れる地域社会が必要であると考えます。これは、福祉や文化芸術分野においても全く同じであるといえます。

2025年大阪・関西万博の開催時には、国内外の障害者の文化芸術を紹介する障害者の文化芸術国際フェスティバルを万博会場と全国津々浦々で展開し、万博をゲートウェイにした文化芸術ユニバーサル・ツーリズムの完成を目指しています。

これらの取り組みを通して、障害が理由でできなかった外国人の訪日を促進することをはじめ、国内外の障害者が全国津々浦々を訪れ、文化芸術や地域の魅力にじっくり触れていただくことを実現したいと考えています。あわせて、万博開催以降も障害者の文化芸術国際フェスティバルを継続して実施し、文化芸術を架け橋にしたユニバーサル・ツーリズムを発展させていきたいと考えています。

【謝辞】

本事業の企画・運営にご協力いただいたみなさま、モニターツアーにご参加いただいた障害当事者・介助者、事業者のみなさま、関係いただいたすべての方々に、心より感謝を申し上げます。

「2025 大阪・関西万博に向けた文化芸術ユニバーサル・ツーリズムプロジェクト」

令和5年度 ユニバーサル・ツーリズムにおける取り組みについて

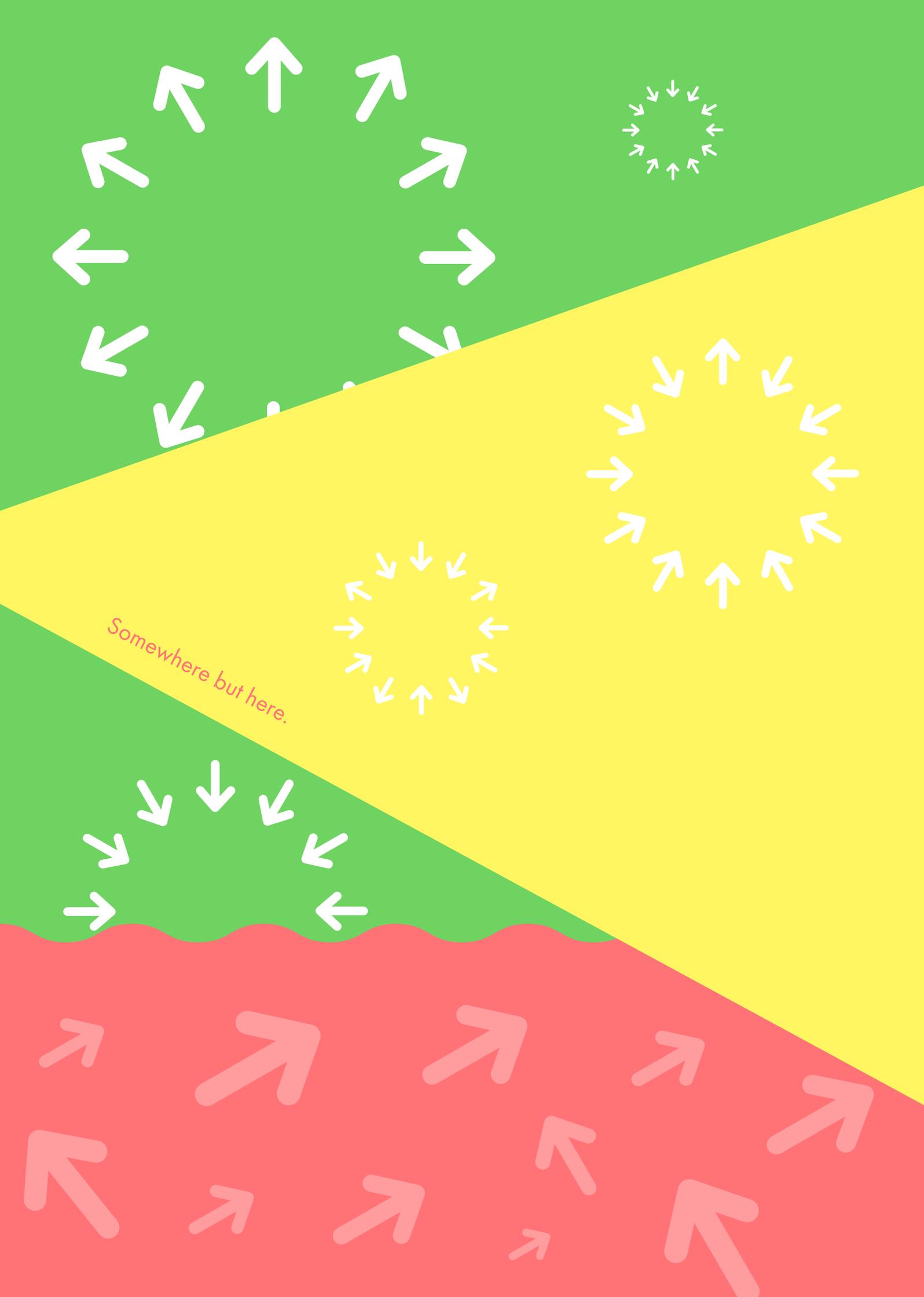
2024年3月発行

制作・発行：一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会

障害者の文化芸術共同創造プロジェクト

(WEBサイト：<https://artbrut-creation-nippon.jp/2022project/>)

編集・デザイン：合同会社あしもと



Somewhere but here.